



同和問題を解決しよう(4)

部落の歴史(3)

明治から今日までの、部落解放についての大きな出来ごとをのべる。一つは明治四年に解放令が出た。二つは、大正十一年水平社が旗上げをした。次は昭和四十年同和対策審議会の答申がされる。そして昭和四十四年同和対策事業特別措置法が施行される。

部落解放令

明治四年八月二十八日、大政官布告で「えた、非人の称を廃せらる候条、自今、身分職業とも平民同様たるべきこと」という法律が公布され、今まで差別されていた人々も、いちおう法的には解放された。これは封建社会から近代社会に変る日本にとって、当然のことだったのだが、今まで、むごい差別の中生きぬいて来た人々にとっては、踊り上るほどのよろこびだった。

だがこの解放令は名目だけで、

実質的な自由は来ず、差別はいぜんとして消えなかつた。

この一つの理由は、明治維新というものが、諸外国の改革とちがつて、まだ封建的なものを多く残した不徹底なものだった。

例をあげると、明治政府はもと大名や武士には、当時の國家予算の数ヶ年分にあたる一億七千五百万の土地や公債を与えて、資本主義社会へふみ出す援助をした。が部落の人々にはビタ一銭も与えず、資本主義の荒波につき出した。又、四民平等になつたとはいえ、上位は皇族、華族があり、さらに士族、平民という区別がつくられた。

第二の理由は、日本の資本主義を発展させるためには、六千部落三百万の部落が残つた方が都合がよかつた。それまで鎖国で、世界からはずつと遅れている日本、しかも

とどいたら、まず、とじまし

それが諸外国との競争に勝つためには、輸出品の単価を安くするより外に方法がなかった。単価を安くするには貨金を安くせねばならない。そこで「女工哀史」のようない、むごい人間無視の労働が行なわれたわけだが、これは農村の貧しさゆえにされたし、部落の労働賃金は更に安かつた。

水平社結成

大正十一年三月三日に、差別に耐えかねた部落の人々は、全国から京都の岡崎公会堂に集り、水平社を結成した。

この水平社の結成は、部落の人々に人権の尊さを自覚させ、国民に部落差別の罪深さを認識させるきっかけになつた。

ただ、初期の運動で、部落以外の人は敵だととらえ、部落差別がおこるのは、国民の中でも、頭の切りかえの出来ない遅れた人々が、封建的な観念を捨てきらないから起るのだ、部落差別は心の中の偏見とおさえたために、徹底的な差別糾弾斗争がされた。そして差別運動のあつた個人を追求したため、国民大衆の中に「部落はこわいもの。うっかり口をすべらすと大変なことになる」といふ考えを植えつけたことも事実。またこの事は、部落を特殊化する口実にもなつた。



同対審

明治、大正、昭和と、部落解放の運動は続けられたが、昭和二十一年松本治一郎氏は、京都新聞ホールで全国部落代表者会議をひらき、「部落解放委員会」を結成した。(昭和三十年に部落解放同盟と改称)それから、いくら個人の考え方を切りかえようとしても、現実に差別が発生する原因となっている教育、就職の機会均等、居住の自由

などの、部落の低位性をなくさない限り、部落の解放はありえないことが明らかになつた。

その後、内閣総理大臣の諮問機関である同和対策審議会が、昭和四十年八月十一日政府に対し、部落解放の施策を答申し、それをうけて、昭和四十四年七月十日同和対策事業特別措置法が制定され、部落解放への総合対策がとられるようになつた。

公民館

右記について、法の一部が改正された年に對して、30万円が継続支給されることになりました。つきましては左記に該当する者は御来店下さい。

(1) 請求者は戦没者の父母等で

は今回請求すること。

北九州市小倉区明和町二ノ十一
読売新聞社内
講究育英研究所事務局(法係)
電(092)221-5231

戦没者の父母等に対する特別給付金継続受給者調べ

き一万円を差引いた額)
4、現に住宅に困窮しているこ

とが明らかな者であること

お知らせ

読売新聞社では、働きながら、自分の力で東京、大阪、博多、北九州の大学または、九州理工専門学校、東京理工専門学校に通学する学生に対して、奨学資金を貸与し、有為な人の養成につとめるこ

とを目的とした「育英奨学制度」を実施しているが、現在、来年度の学生を募集中です。詳細は左記に問い合わせると、パンフレットと申込書を無料で送付します。

町営住宅の空家補充

入居希望者の受付

現在岡町には三二八戸(第一種住宅一二戸、第二種住宅六八戸)

の町営住宅があり、一年間に約一五戸程度の空家が発生しております。最近多く空家が発生していますので、空家補充入居を希望される方は申し込みの受付を随時行なっていますので、役場土木課まで申し込んで下さい。

抽選会は空家の発生に応じ随時行ない、当選されない方の申し込み書類はその年度内(三月末日まで)においては有効書類として取扱います。

一、入居者の資格
1、町内に住所、又は勤務場所を有する者であること。

社会福祉協議会へ

香典返しとして寄付

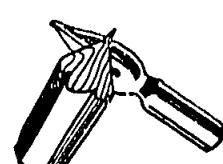
2、既に同居、又は同居しようとする親族があること。
3、次に掲げる基準の収入のある者であること。

ア、第一種住宅については
入居の申し込みをした日において、三〇、〇〇〇円をこ
え、五八、〇〇〇円以下であ
ること。

一、高陽区故松尾佳世子殿 2才
昭和48年7月22日死亡
松尾勝利殿より

一、内浦区故竹井恵莊殿 83才
昭和48年8月25日死亡
竹井正孝殿より

以上



老人クラブへ

香典返しとして寄付

以上

一、手野区故依口静江殿 77才
手野区故依口キミコ殿 75才
昭和48年8月22日死亡
依口勝美殿より

一、手野区故依口静江殿 77才
手野区故依口キミコ殿 75才
昭和48年8月22日死亡
依口勝美殿より

以上

一、山田区故鷲島平八殿 44才
昭和48年8月13日死亡
鷲島正美殿より

以上

一、手野区故依口静江殿 77才
手野区故依口キミコ殿 75才
昭和48年8月22日死亡
依口勝美殿より

以上

「家出人等を さがす相談所」

北九州市警察部において「家出人等をさがす相談所」を開設しました。

この相談所は、家出人の所在や身元のわからぬ死者の身元を確認し、家族に引渡すことを目的として開くものです。

お家族や知人で家出したまま行方のわからない人、音信がなく日夜心配されておられる方は、お気軽にぜひ相談において下さい。

記
日時 9月25日(火)～9月28日

(金) 毎日午前9時30分から
午後4時まで
場所 北九州市小倉区城内五番一
号
北九州市警察部
電話五六一一七一七一
内線 三七六



秋の交通安全 運動がはじまる

全国一斉に秋の交通安全運動がつぎのように実施されます。

◎期間

9月21日から、9月30日までの十日間

歩行者事故、とくに子どもと老人の事故防止

今回の運動については、スクール、ゾーンの定着化をばかり登下校(園)時における事故をなくす

総務課

福岡県警察官募集

1、採用予定者人員 約二二〇名
2、第一次試験 10月21日
3、第二次試験 11月下旬
4、最終合格者発表 12月下旬
5、試験地(県内四ヶ所)
6、受験資格 昭和二年四月一日から昭和三年四月一日までに生れた男子
7、採用 昭和四九年四月以降

行者保護のため、指導取締りが実施されるので充分気をつけて運転してください。
総務課
久留米市
佐賀市、熊本市
日から昭和三年四月一日までに生れた男子
ください。



立正俊成会垣垣支部会員

奉仕の精神、善意は、今年も昨年に引き続き波津海水浴場の清掃を続けられた。

七月十五日から八月五日まで十名位の方が交替で毎日、午後三時から五時まで、汗しておられた。

今年は雨が降らずとのほか暑く、浴客は水着、ハダカで遊んでいる中を、会員の方は等、ボリ袋をもち、他人の食べちらした西瓜の皮等を拾い、奉仕活動をされる姿は、みんなにはどんなに映ったことだろう。

感謝します

公 民 館



清掃奉仕

総務課

福岡県職員（警察事務）中級、初級職および交通巡視員募集

少年ソフトボーリング大会

1、募集人員

- 中級警察事務 男子 約十名
- 初級警察事務 男子 約十名
- 交通巡視員 女子約四十名

中級職

昭和十九年四月一日から昭和二九年四月一日までに生まれた者

西山田
吉木B
高陽B
白谷
高原
西黒山
緑ヶ丘
上海老津
南高陽
百合野
内浦
上畠
吉木A
新海老津
百合ヶ丘
堺
東松原
山田A
手野
東黒山
西高陽
山田B
三吉
吉木A
高波
野間
東山田
高陽A
倉津

八月一日、三日、四日、岡中グランドで、第八回少年ソフトボーリング大会を実施する。連日猛暑の中三チームの多数の参加で熱戦が展開された。優勝吉木B、準優勝高陽A。

公 民 館

- 第一次試験 九月三日（月）から九月二十八日（金）まで
- 第二次試験 十一月中旬
- 最合格者発表 十二月中旬
- 交通巡視員 昭和二年四月一日から昭和三年四月一日までに生まれた者

総務課

です。



◆共済期間は

出資金、掛金をそえて申し込んだ翌日の午前零時から向う一年間です。

◆対象となる事故は

自動車 オートバイ 自転車
荷車 耕耘機 汽車 電車 ケーブルカー（空中ケーブルを含む）リフト昇降機（エスカレーターを含む）北九州市営渡船などの乗物による人身事故に限ります。但し国内での事故に限ります。

△加入資格は

町内に居住している人。（修学のために他都市に居住している学生は加入できません。）

△出資金は
一世帯百円です。（二年目より不要）

△掛金は

一人年額三百六十円です。ただし同一世帯（親族）二人以上加入のときは一人目から三百円です。一日も早く家族ぐみで加入しましょう。

一日一円の交通共済に加入しましよう!!

この制度は不幸にして交通事故にあられた方の急場をしのぐことを目的としたもので皆さんに僅かな掛金を出し安い交通事故にあられた方々のお役に立てていただくという相互扶助を基本とした共済制度です。

現在継続加入と新規申込受付中です。

一人年額三百六十円です。ただし同一世帯（親族）二人以上加入のときは一人目から三百円です。

△加入申込みは

各行政区の区長、又は町役場総務課庶務係まで申込み下さい。

卓 球 大 会

宝 满 山 登 山

第101号

(5) 昭和48年9月6日

町 報 岡 堀

八月五日、岡垣町中央公民館で
公民館対抗卓球大会を実施、男子
六チーム、女子一チームの参加。

団体戦男子

一位、吉木
二位、つくし自治会A

三位、東松原

四位、つくし自治会B

五位、戸切

六位、内浦

個人戦女子（不戦）

一位、つくし自治会

個人戦男子
(25才以下の部)

一位、福山満章（戸切）
二位、石倉敏雄（東松原）
三位、佐々木栄二（吉木）
(26才以上の部)
一位、三島利英（海老津）

二位、柳田芳夫（東松原）
三位、広渡正彦（三吉園地）
一位、下口京子（海老津）
二位、岩崎留美子（高倉）
三位、河島貴子（海老津）

公 民 館

郡 民 体 育 大 会

八月二十六日、県民体育大会の
予選を兼ねて開催。例年都体は、
雨空であったが、本年は一日中快
晴で各競技とも競われた。

卓球一般の部優勝
(監督) 広渡正彦 (選手) 三島利
英、佐々木英二、伊藤光二、市津
廣海、下口京子、岩崎留美子

三段跳優勝、石川敏
弓道一般の部優勝

(監督) 吉田太郎 (選手) 山木昌
広、太田富夫、花田日出登、門司
守夫、西村浩一

相撲一般の部優勝
(監督) 藤岡隆放 (選手) 広渡秀
雄、山田豊、野中正行

陸上競技、五千メートル優勝、門司勇二
走り幅跳び、石川敏
走り幅跳び、山木昌
走り幅跳び、太田富夫
走り幅跳び、花田日出登
走り幅跳び、西村浩一
走り幅跳び、吉田太郎
走り幅跳び、守夫

宝 满 山 登 山

会員募集

盆栽講習会

今年の三月に盆栽、植木の講習
会をしたら大変好評で、春夏秋冬
なられたので、まだ期日がはつき
りしないが九月二十日頃予定して
います。確定したら区長さんに連
絡します。

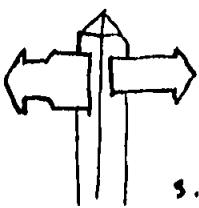


です。

会費は一人九百円です。弁当・水
山あるが、太宰府天満宮(40分)
カマド神社(1時間分30分)宝
満山頂が一般向である。
さらに50分で三郡山頂だが、途
中、宇美町への下山道もある。
三郡山から上穂波へ下る道は、
途中で、トコロテンを食べさせて
呉れるので面白いコースである。
健脚向として、砥石山、若杉山縦
走コースもあるが、七、八時間要
する。

復路も太宰府なら、都府接跡や
觀世音寺や菩薩寺の光明寺で時を過
ごすのも良い。

(吉木 二村泰稔)



公 民 館

昭和48年9月6日

岡町報

岡垣風土記

海老津の歴史

海老津の中村繁雄氏、木原義男氏、区長の中村行雄氏に海老津の歴史をきく。

大昔の国道は、芦屋、内浦の垂水岬を通っていたし、一方は黒崎、木屋瀬を通っていたので、海老津の開けるのは遅く、あまり特筆するものが残っていない。

寺 屋 敷

小局の地名

鉄道線路の東側、宝の南側に「寺屋敷」という所がある。昔照安寺というお寺のあった所で、いつの頃か鞍手郡の本月に移った寺跡である。

鉄 道 線 路

明治二八年に旧鉄道線路が出来た。当時の駅は遠賀川にあり、後に機関車がついて、城山峠を越していた。当時の線路は今の線路より大体東側にあった。

明治四四年に城山トンネルが開通し、今の鉄道線路になり、海老津駅も出来る。

金 毛 罷 山

金毘羅山のことは以前書いたの

で、簡単に書くが、この山の上に海老津の氏神白峰神社があり、後

諸岐から請した金毘羅神社を合祀している。今は松喰虫で全滅したが最近まで立派な松が生えていたので、航海の目印としていた。又

航海安全の神として青屋から参拝する人が多かった。

木山弾正の子の墓



文事に努め、朝廷、公卿の風を尊び、後奈良天皇即位の金や賄賂を献上したので高位を与えられ、朝鮮、明と貿易をし、山口を西の京都のようにした。

木 山 弾 正

織田豊臣時代の勇士で、天正十

六年小西行長が、豊臣秀吉から肥

後の半分二十四万石を賜わる。そ

時木山弾正は天草で土兵を率いて

兵をあげその勢さかん。

行長は加藤清正に援軍をたのむ。

清正是これをうけて弾正を平ぐ。

弾正は清正の家臣庄林隼人に刺されたといふ。

横 手 五 郎

熊本城内に横手五郎首かけの石

という大石がある。伝説による

と、横手五郎は木山弾正の子で、

非常に力が強く、城をつくる人足

をさせられたが、力が強いので大

石を首にかけて迎んだと。

又五郎は一方の大将だったので、

殺すため井戸に落され、上から大

石が投げこまれた。しかしそれを

石を首にかけて迎んだと。

又五郎は一方の大将だったので、

殺すため井戸に落され、上から大

石が投げこまれた。しかしそれを

石を首にかけて迎んだと。

自分を殺したいのなら砂利を投げ

こめ」と。そこでざん殺されたと

いう。

長 煙

内義隆は永年四年から天文二十年（一五〇七年～一五五一年）の武将で、一五三三年から三四四年に北九州を平らげ、四一年から四年に安芸、石見に軍を進め、毛利氏を援けて出雲の尼子晴久を攻める。

金毘羅山のことは以前書いたの

津というのは、船舶の碇泊する

山、前田、松田、六反田、ヒン道

小局、尾畠、道ノ瀬、広九、四反

利氏を援けて出雲の尼子晴久を攻

める。